

1971年、沖縄闘争を闘い

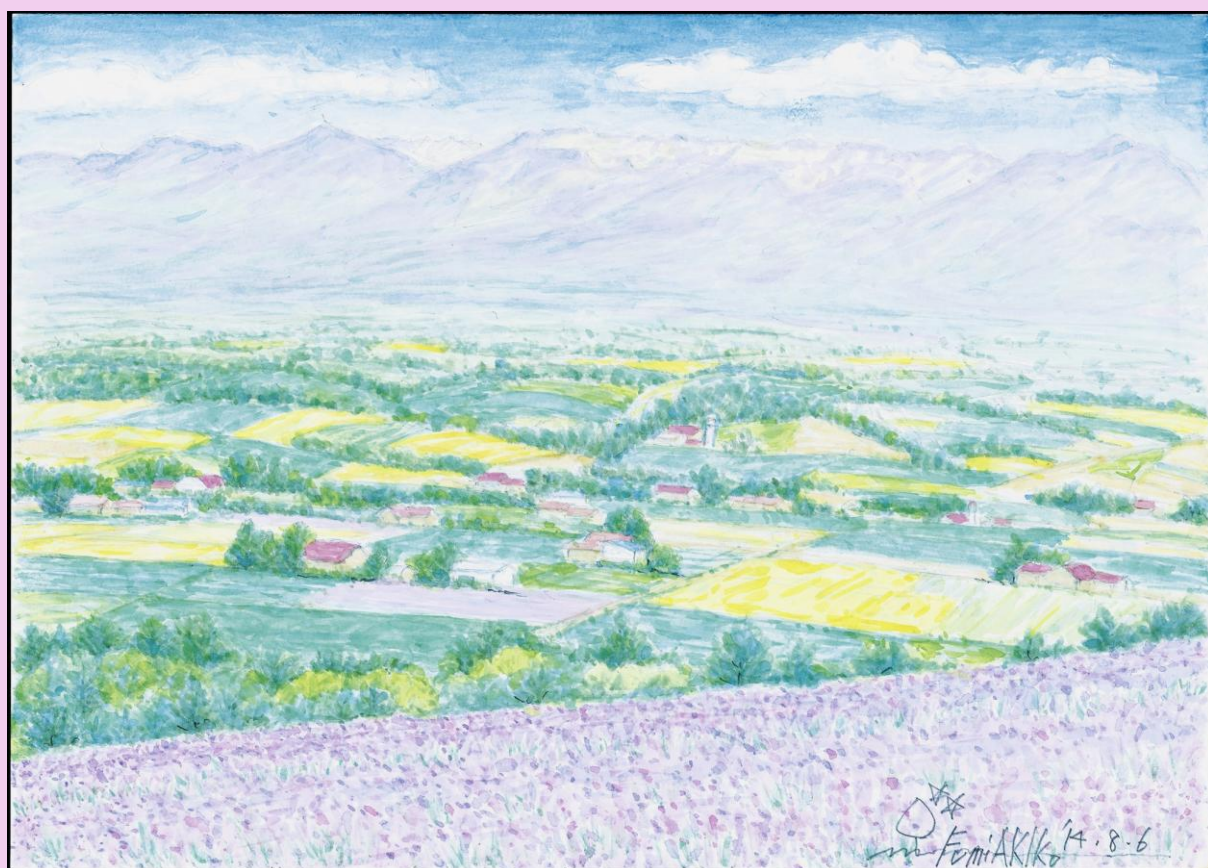
無実で獄中 44年

再審訴え獄死

国賠訴訟中

2026

星野文昭 札幌絵画展



『暁子と行く、ラベンダーかおる富良野の丘』
(2014年の作品)

7月12日(日)午前10時～午後7時、13日(月)午前9時～午後5時

札幌市地下歩行空間チ・カ・ホ (入場無料)

主催 北海道星野文昭さんを救う会

札幌市中央区南13条西6丁目3-15 星野治男方 TEL 011-302-0315

イラン攻撃に直結する沖縄 - 日本

アメリカによるイラン奇襲で、巡航ミサイル「トマホーク」がイラン南部の小学校を直撃し、児童少なくとも168人、教員14人が死亡しました。中東全域が戦場となり、輸入石油の9割がホルムズ海峡を通過する日本経済へ影響が及び始めています。

米海軍横須賀基地を母港とするイージス艦「ミリアス」などが沖縄県うるま市のホワイト・ビーチに2月13日に寄港後、3月2日にアラビア海で他の5隻とともに「トマホーク」を発射。横須賀・沖縄が出撃基地となっていて、日本は今や事実上の参戦国です。

基地付き返還強行反対の実力闘争

沖縄に強大な米軍基地があることで、アメリカによるベトナムやイラク、イランなどへの侵略戦争が展開されてきました。

沖縄は敗戦後、天皇裕仁の提案で天皇自身の戦争犯罪免責や天皇制存続との引き換えで、本土の独立後も米軍政下におかれ、基地による貧困や米軍犯罪に苦しめられてきました。日米両政府は本土復帰要求を逆手に取り、基地を存続するだけでなく、核兵器の常備も密約する沖縄返還の協定を締結しました。

返還の前年、米軍基地の存続に反対して沖縄では2度の全島ゼネストなど激しい反対運動が巻き起こり、それに応えて本土でも闘いが展開されました。協定批准の採決強行を控えた11月14日、全都の集会・デモ禁止による戒厳体制を打ち破って渋谷では実力闘争が闘われ、双方で2名が亡くなりました。

転向者の「供述」を根拠に無期懲役

警察は、機動隊員死亡の実行犯として星野文昭さん（札幌出身）や大坂正明さん（帯広出身）らを逮捕。物的証拠は一切なく、闘争参加の青年に死刑を示唆する拷問的な密室での取り調べを行って転向させ、警察の描くストーリーに沿った供述を強要。裁判所はこの虚偽の供述を唯一の根拠に星野さんに無期懲役の

判決を下しました。星野さんは「沖縄を闘うことで人間になれた」と語り、転向強要の度重なる懲罰を受けながら44年、再審を請求しながら非転向を貫きました。

がんを放置し術後出血にも不対応

徳島刑務所は有機溶剤を使う作業を命じ、星野さんが作業中に倒れたにもかかわらず、長期間検査を行わずに放置。簡易検査の結果、肝臓に巨大な腫瘍ができたことがやっとなりました。だが、仮釈放面接を控えた本人や家族らに告知せず、3カ月も手術を行いませんでした。仮釈放不許可の決定後、近傍の病院ではなく、手錠のまま車で移送して東京の東日本成人矯正医療センターで手術を行いました。

後に裁判で国の側が主張したように、同センターは手術後の再出血に対応できる「一般病院」ではなく、術後出血にもかかわらず星野さんを放置し、死亡させました。国家賠償訴訟では昨年3月、東京地裁が原告遺族の訴えを認めました。国側は控訴審で反動の牙城と言われる東京高裁での逆転判決を画策しています（判決は6月24日）。

大坂さん控訴審無罪で星野再審へ

国家権力は、大坂さんを星野さんと同様、虚偽の供述を唯一の根拠にして起訴し、1審で東京地裁は懲役20年の判決を下し、控訴審は期日未定。未決拘留が9年を超え、大坂さんの健康がむしばまれています。星野さんの肝臓がんを放置した徳島刑務所の当時の所長だった平良敦史が所長となっている東京拘置所は大坂さんの治療を行おうとしていません。

星野さん、大坂さんは機動隊員死亡に直接関与していないのに有罪とされました。きわめて意図的な冤罪であるばかりか、本土で沖縄に連帯して闘うことへの見せしめのためです。大坂さんの控訴審で無罪を実現し、星野さんの再審・無罪を実現しましょう。

星野さんは獄中結婚した暁子さんに贈るために200点近い絵を遺しました。そのうち15点を展示します。是非ご来場ください。